

令和7年度 教育活動等に対する学校評価書

令和8年 3月25日

学校法人アイ・アイ学園 有度幼稚園 園長 垣本 範子

学校法人アイ・アイ学園 有度幼稚園 学校関係者評価委員長 若月 容子

1 幼稚園の教育目標

丈夫で生き生きと活動する子

1. 仲良く元気に遊ぶ子
2. 心持の優しい思いやりのある子
3. 考えて行動できる子
4. 礼儀正しくはきはきした子
5. 工夫して新しい物を作り出そうとする子

2 本年度の重点目標（学校評価の具体的な目標や計画）

見つけよう やってみよう ほらほら何かが始まるよ

3 自己評価とそれに対する学校関係者評価

	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価点	幼稚園としての反省と改善策	評価点	意見
1	保育の計画性	3.4 (2.4) B	・ECEQ 研修で遊びの計画と環境構成について学び合うことができた。 ・先生方が午後も預かり保育に対応するため、打ち合わせを2回ずつ取ることで、全員が同じ内容をしっかり理解することができた。 ・天候などで急な変更がある時、臨機応変で柔軟な対応力が必要。 ・縦割りの保育を積極的に計画する。 ・教育課程の定期的な読み合わせだけでなく、内容を深く読む。 ・2人担任の計画に課題を感じる。時間の使い方を工夫し、情報の共有と保育計画に対する意識統一を図る。 ・その時の子どもの姿をよく観察し、何が必要なのかを読み取る力を育てる。 ・子どもの発達を捉える力（目）を持つ。	A	・幼稚園の活動には、一つ一つ意味や、成り立ちがある。そのことを保護者が理解できたら良いのではないかな。 ・子どもの成長に気付いてもらえるのは、とても嬉しいこと、愛情の基本ともいえる。 ・ECEQ の研修に取り組んでいただいたことは、とても良かったと思う。 ・怪我やヒヤリハットを積み重ねて、打ち合わせやミーティングを工夫してくれていることは、とても安心できる。
2	保育のあり方 幼児への対応	3.5 (2.4) B	・オープンスペースの活用が、クラスの様を超えた保育に繋がっている。 ・将来の夢が幼稚園の先生と言う子どもが増えた。あこがれる先生になれているのか日々考え努力したい。 ・研修を通して、遊びの環境に対する考え方が変わった。子どもの今を見逃さないことの大切さも理解でき	B	

			た。 ・大きな怪我を防ぐ人員配置に、毎日のミーティングで、一人一人の先生が責任を負う範囲を確認し、漏れの無いように努めた。しかし、預かり保育中に骨折の怪我が1件あった。午後の保育も先生方の配置の確認を確実に行う。 ・否定的な言葉を使わないことは、研修でも学び日々努力しているが、やる気を起こさせる言葉も同時に学んでいく。		
3	教師としての資質、能力、良識、適正	3.5 (2.6) B	・子どもと接する仕事に従事しているという意識は高く、子どもの心に誠実に向き合いたいと努力している。 ・責任感も高く持っており、一生懸命取り組んでいる。 ・20年前と今では、コンプライアンスや危機管理はもちろん、指導要領も何度も改訂され、育てたい3つの力を基本とした子どもの主体性を育てる保育の方法や考え方が新しくなっている。経験に甘んじることなく、保育をブラッシュアップしていく意識を持って学ぶ。 ・全部のクラスが自分のクラスという有度幼稚園の考え方を意識できている。 ・余裕が無い時に、明るい挨拶ができないことがある。体調管理も仕事のうちと考え努力したい。 ・チーム保育で支える体制作りを今一度見直す。	B	・時代が変わっても、変わらないもの、変わってほしくないことはある。 ・先生といえども、人間完璧などありえない。間違ふこともある。完璧を求めるのではなく「ごめんね」が言える関係性を作ることが大切ではないか。 ・子どもの行動は、すべてが好奇心が基本である。また、失敗は学びにつながる行動である。子どもが謝らなければならないのは、大人の配慮が足りないことの方が多いのではないか。 ・有度幼稚園の先生方は、謙虚に仕事と向き合ってくれていると感じる。
4	保護者への対応	3.5 (2.6) B	・クラスだよりは、業務の負担を考慮し月1回を基本とし今年も保育のねらいや子どもの姿が伝わるよう努力できたと感じる。また、外部評価でも概ね良い評価を頂くとともに、感謝のコメントも多く頂き今後の励みになった。 ・外部評価や日々の様子から、話しやすい教職員と声の掛け辛い教職員がいるのではないかと感じた。忙しい業務の中で、自分の仕事を後回しにするのは難しい時もあるが、保護者の悩みを気軽に相談できる幼稚園であるために、一人一人の教職員が意識を変えていくことが求められる。 ・親しき中にも礼儀ありの気持ちを持って接する事を忘れない。	B	・先生方、笑顔でいてほしい。無理はしないでほしい。 ・ドライブスルーでは「〇〇ちゃん、おはよう！」「行ってきます」と名前を呼んでくれたり、明るく対応してくれると嬉しいし安心する。 ・「ありがとう」だけでなく「〇〇してくれてありがとう」と言ってくれると、自分の事を見てくれたのだと嬉しくなる。有能感が育つ。

			・若い先生方が保育の思いをうまく伝えられていないという悩みに対応できるのは、経験豊富な教職員のサポートである。チームでそれぞれの得意を生かし、支え合っていく。		
5	地域の自然や社会とのかかわり	2.8 (1.9) C	・地域の小学校との連携が形になってきている。お互い忙しい中ではあると思うが、協力できる体制を作って取り組んでいく。 ・笑話会との交流が定着してきている。次年度も回数を増やして、お互いに無理のない交流会を進めていく。 ・愛愛の森の斜面が崩れて、遊木の森を利用させてもらうことが増えた。保育では、充実した活動になったが、保全活動という目的は薄れてしまった。次年度は、保育の中にも、里山の保全を意識して取り入れていく。	B	・地域の活動に参加することは小学校にもつながっていく。 ・笑話会との交流もとても良いと思う。 ・有度まつりは有志でよいので参加してほしい。
6	研修と研究	3.0 (2.1) B	・静岡市のグループ研修で「ごっこ遊び」に視点をおいて研修をすすめた。有度幼稚園の保育の事例が選出され、2年間のまとめとして発表した。 ・ECEQ の研修成果は大きく、ポジション遊びの中で育つ子どもの力を見直し、事後の環境構成に大きく影響している。	A	
7	外部アンケート	B	・全体的に、概ね良い評価を頂けた。 ・幼稚園に行くのを楽しみにしている、好きな遊びを楽しんでいるかでは、概ね良い評価となった。 ・安全面や良いところを伸ばそうとしているという点で概ね良い評価を頂けたことも良かった。 ・困ったことを先生に伝えられているかという問いに対し、数名が当てはまらないと回答していた。頑張っているように見えても、我慢していたり困っているけど言えないでいる子もいるということを常に頭の片隅において保育していく。 ・少数ではあるが、当てはまらないと回答している方もいる。また、相談相手になっていないと感じる方もいたので、真摯に受け止め改善に努める。	B	・困っていることを言葉にするのは、時間がかかる。心も成長していないと難しい。困ると言う事は、悪いことではなく、それが学びに繋がる。先生には、言葉にできない子どもの心に気付いてほしい。 「大丈夫だよ」「一緒に考えてみよう」「先生も同じだよ」など安心感が持てる存在であってほしいのではないかな。 ・先生たちも解決しなくてはと思うと心が硬くなるので、軽い気持ちになる事が良い。 ・アンケートの保護者の気持ちにの中には、応えられることと園の考え方を理解して頂かなくてはならないこともあると思う。丁寧に説明していくしかないと思う。

*結果の表示方法 A 十分達成されている

B 達成されている

C 取り組まれているが、成果が十分でない

D 取り組みが不十分である。

4 本年度の重点目標の総合的な評価結果

重点目標 「 みつけよう やってみよう ほらほら何かが始まるよ 」

今年度は、有度幼稚園の特色であるポジション遊びを改めて見直してみよう！というテーマを持ち、子どもの姿から育ちを見つける目を養いたいという目的を持ち ECEQ の研修に取り組んだ。研修を通じエピソードから子どもの育ちを読み取り言葉にする事を、繰り返しトレーニングし学ぶことができた。また、主体性を育てるための教師の関わりや環境整備についても静岡市私立幼稚園連合会のグループ研修と合わせて、学ぶ機会を頂けたと感じる。日々の業務はチームで支え合って取り組み、自分がやるべきポジションを意識でき始めたことから一定の成果を感じる。しかし、まだ保護者や子ども一人一人の思いに答えきれていないところもあるとわかった。今後は、教師の人間力の成長につながることを目指し、業務の改善と研修に努めたい。

5 学校評価委員より総合的コメント

- ・先生方の日頃の努力がよくわかりました。日頃、幼稚園に通っている中でも感じています。子どもは先生が大好き、家に帰ってくると先生の真似をしていることも多いです。2人担任制で、ありがたいと感じる一方、関係性が心配に思う時もあります。支え合うパートナーでいてほしいです。
- ・幼稚園に求めすぎるばかりでなく、保護者も協力していくことが子どもたちにとっての良い幼稚園生活には欠かせないと考えます。幼稚園を保護者も楽しむ考え方に助けられていると思います。保護者も学びが多いと感じます。
- ・先生方には、楽しく保育をしていただきたいです。